

土 地 改 良 事 業 計 画 書

県営鮎谷地区

区画整理・農業用排水施設整備

(経営体育成基盤整備「農地中間管理機構関連型」) 事業

< 目 次 >

第1章 目 的	1
第2章 地域及び地積	1
第1節 地 域	1
第2節 地 積	1
第3章 現 況	2
第1節 気象及び海象	2
1. 一般気象	2
2. 特殊気象	3
3. 海 象	3
第2節 土 地 状 況	4
1. 地形、土壤及び侵食の程度	4
2. 土地分類	5
3. 土地利用の状況	5
4. 土地所有の状況	6
第3節 水 利 状 況	6
1. 用水状況	6
2. 排水状況	9
3. 河川状況	11
第4節 道 路 概 況	11
1. 道路概況	11
2. 主要道路一覧表	13

第5節 地域農業の概況	14
1. 産業別就業人口	14
2. 経営耕地広狭別経営体数及び耕地の分散状況 並びに農業経営体数	14
3. 動力農機具及び主要家畜頭数	14
4. 主要作物作付状況	15
5. 農業の動向	16
第6節 地域環境の概況	16
第4章 一 般 計 画	17
第1節 事業計画の要旨	17
1. 要 旨	17
2. 事業別面積	17
第2節 営農計画及び土地利用計画	18
1. 営農計画の概要	18
2. 土地利用区分	18
3. 作付方式	19
4. 生産計画	20
5. 労働改善計画	21
6. 級地別土地利用区分	22
7. 土地配分計画	22
第3節 用 水 計 画	22

1. 計画基準年	22
2. 計画かんがい方式	22
3. 計画用水系統	22
4. 計画用水量	24
5. 水源計画	24
第4節 排水計画	26
1. 計画基準雨量	26
2. 計画排水方式	26
3. 計画排水系統	26
4. 計画排水量	28
5. 排水対策	28
6. 湛水検討	29
第5節 道路計画	29
1. 道路及び索道	29
2. 路線配置図	29
第6節 農用地造成計画	31
第7節 洪水調節計画	31
第8節 干拓計画	31
第9節 農用地整備計画	31
1. 区画整理	31
2. 暗渠排水	33
3. 客土	33
4. 農地保全	33

第10節 老朽ため池改修計画	33
第5章 主要工事計画	34
第1節 用水施設	34
1. 貯水池	34
2. 頭首工	34
3. 揚水機	34
4. 用水路	34
5. その他かんがい施設	34
第2節 排水施設	35
1. 排水水門	35
2. 排水機	35
3. 排水路	35
4. その他排水施設	35
第3節 道路及び索道	36
1. 道路	36
2. 索道	36
第4節 農用地造成	37
第5節 洪水調節施設	37
第6節 干拓施設	37
第7節 農用地整備施設	37
1. 区画整理	37
2. 暗渠排水	38
3. 客土	38

4. 除 礫	38
5. 農地保全	38
第8節 老朽ため池改修施設	38
第6章 附帯工事計画	38
第7章 工事の着手及び完了の予定時期	38
第8章 環境との調和への配慮	39
第9章 換地計画の概要	40
第1節 換地計画を作成する上での基本的な考え方	40
第2節 換地区の設定	40
1. 換地区の名称、所在、面積	40
2. 換地区を設定する理由	40
第3節 換地計画樹立の基本方針	40
1. 従前の土地の地積の基準	40
2. 用途別予定地積	41
3. 農用地集団化の方針	42
4. 非農用地の換地方法	42
第4節 土地の評価及び清算の方法	43
1. 評価の方法	43
2. 清算の方法	43
第5節 換地計画樹立の年度計画	43
第6節 換地処分 of 時期に関する特則	43
第10章 事業費の総額及び内訳	44
第11章 効 用	45

第12章 関連する事業	45
第13章 現況・計画平面図	45
計画一般図	46

第1章 目 的

本地区は、新潟県岩船郡関川村の南西部に位置し、一級河川大石川流域の河岸段丘に広がる農業地帯であり、基幹作物である水稻を中心とした農業が展開されている。本地区のほ場は昭和40年代に一次整備されたが、末端用排水路に土水路が混在し、水管理及び維持管理に支障を来している。また、区画は10a程度が大半を占め、農道幅員が2m程度と狭いことから、農作業機械の大型化が進まず、作業効率が向上しない状況にある。

このため、本事業で基盤整備を行うことにより、合理的な水管理や大型機械の活用による農作業の効率化や生産コストの低減を進めるとともに、園芸導入による販売額の向上や地域の担い手の育成を図る。

第2章 地域及び地積

第1節 地 域

(第1表)

事業名	地 域
区画整理・農業用排水施設整備	新潟県岩船郡関川村鮎谷

第2節 地 積

(R7年8月現在) (第2表)

事業名	現況地目 市町村名	田 (ha)	畑 (ha)	原野 (ha)	山林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備 考
区画整理	関川村	12.2	0.0	0.4	—	1.4	14.0	
	計	12.2	0.0	0.4	—	1.4	14.0	
農業用排水 施設整備	関川村	(12.2)	(0.0)	—	—	—	(12.2)	※区画整理事業と重複
	計	(12.2)	(0.0)	—	—	—	(12.2)	
合 計		12.2	0.0	0.4	—	1.4	14.0	

※（ ）は重複受益である。

第3章 現 況

第1節 気象及び海象

1. 一般気象

(第3表-1)

観測所名	下関観測所	かんがい期	非かんがい期	計 又は平均	備 考
観測期間	備考欄参照	5月～9月	10月～4月		
平均気温 (°C)		21.4	6.2	12.5	気象庁HP データ 1995年～2024年
降水量	平均 (mm)	1,018.0	1,762.4	2,780.4	気象庁HP データ 1995年～2024年
	基準年 (mm)	802.5	1,361.0	2,163.5	2015年気象庁HP データ
降水日数	平均 (日)	64	144	208	気象庁HP データ 1995年～2024年
	基準年 (日)	58	129	187	2015年気象庁HP データ
根 雪 期 間		1月9日～2月19日 42日間			出典：新潟地方気象台 1991年～2020年
無 霜 期 間		4月1日～11月26日 240日間			出典：新潟地方気象台 1991年～2020年
最 多 風 向		西北西	最 大 風 速 (風 向)	16.0 m/s (東南東)	最多風向発生時期 3月 最大風速発生年月日 2015年8月25日 気象庁HP データ 1978年～2025年

2. 特殊気象

(第3表-2)

観測所名	第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位			備考
下関観測所																
観測期間	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	
備考欄参照																
最大日雨量 (mm)	380.0	2022.8.4	1/500	210.5	2014.7.9	1/30	191.5	2011.6.23	1/20	188.5	2022.8.3	1/15	177.0	1981.6.22	1/10	気象庁HPデータ 1976年～2025年
最大時間雨量 (mm)	149.0	2022.8.4	—	67.0	2004.7.17	—	63.0	2014.7.9	—	60.0	2015.9.4	—	56.5	2024.8.25	—	気象庁HPデータ 1976年～2025年
最大4時間雨量 (mm)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
最大連続雨量 (mm)	569.0	1958	1/30	518.0	1966	1/20	514.0	1960	1/20	455.0	1995	1/10	435.0	1981	1/7	水文統計資料 [第14版] 1953年～2019年
最大連続干天日数 (日)	37	2000	1/200	33	1994	1/100	32	1978	1/100	26	1983	1/20	23	1985 2018	1/10	水文統計資料 [第14版] 1953年～2019年 (かんがい期間)

3. 海 象

該当なし

第2節 土 地 状 況

1. 地形、土壌及び浸食の程度

本地区の地形勾配は、南西側から北東側へ傾斜している。平均地形勾配約 1/54、標高 119.0～132.0m となっている。

地質は第四紀洪積層土壌であり、土壌は G60（灰褐色土壌強粘土構造型）である。

(1) 地 形

(第4表－1－1)

事業名	地 目	田						畑・その他						受益地標高 (m)		備 考
	傾斜区分	1/1,000 未満	1/1,000 ～ 1/100	1/100 ～ 1/20	1/20 ～ 1/11.5	1/11.5 ～ 以上	計	3° 未満	3° ～ 8°	8° ～ 15°	15° ～ 20°	20° 以上	計	最高	最低	
区画整理	面 積 (ha)	—	—	12.2	—	—	12.2	0.0	—	—	—	—	0.0	132.0	119.0	
	比 率 (%)	—	—	100.0	—	—	100.0	100	—	—	—	—	100			
農業 施設整備 排水	面 積 (ha)	—	—	(12.2)	—	—	(12.2)	(0.0)	—	—	—	—	(0.0)	132.0	119.0	※区画整理 事業と重複
	比 率 (%)	—	—	(100.0)	—	—	(100.0)	(100)	—	—	—	—	(100)			
合 計	面 積 (ha)	—	—	12.2	—	—	12.2	0.0	—	—	—	—	0.0	132.0	119.0	
	比 率 (%)	—	—	100.0	—	—	100.0	100	—	—	—	—	100			

※()内は重複受益である。

(2) 土 壤

(第4表-1-2)

項目 土壤統（区）名	土 壤 統 一 区 分 一 覧 表										面 積 (ha)		備 考	
	土 壤 断 面								堆 積 様 式	母 材	事 業 名			
	色	腐 植 層	礫 層	酸 化 沈 澱 物	土 性						泥炭層黒泥層 及びグライ層	区画整理・ 農業用排水施設整備		計
					表土	下 層 土								
					一層	二層	三層	四層						
(田、畑)G60 灰褐色土壌一強粘土構造型	灰	1層含む 2層含む 3層含む	無	無	LiC	LiC	HC	LiC	無	洪積	第四紀洪積層	12.2	12.2	
計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12.2	12.2	

(3) 侵食の程度
該当なし2. 土地分類
該当なし

3. 土地利用の状況

(令和7年8月現在) (第4表-3)

事 業 名	土地利用別 市町村名	耕 地						山 林		採草牧草地 (ha)	原 野 (ha)	道 水路 (ha)	そ の 他 (ha)	計 (ha)	備 考
		水 田 (ha)	普 通 畑 (ha)	牧 草 畑 (ha)	果 樹 園 (ha)	茶 園 (ha)	樹 園 地 そ の 他 の (ha)	用 材 林 (ha)	薪 炭 林 (ha)						
区画整理	関川村	12.2	0.0	—	—	—	—	—	—	—	0.4	1.4	—	14.0	
	計	12.2	0.0	—	—	—	—	—	—	—	0.4	1.4	—	14.0	
農業用排水施設整備	関川村	(12.2)	(0.0)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(12.2)	
	計	(12.2)	(0.0)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(12.2)	
合 計		12.2	0.0	—	—	—	—	—	—	—	0.4	1.4	—	14.0	

※ () は重複受益である。

4. 土地所有の状況

(令和7年8月現在) (第4表-4)

事業名	所有別 区 分	個人有	その他	土地改良区有	市町村有	県 有	国 有	計	備 考
農業用排水施設整備・ 区画整理	面 積 (ha)	12.2	0.4	—	1.4	—	—	14.0	
	受益者数 (人)	29	13	—	1	—	—	43	
	筆 数 (筆)	128	21	—	22	—	—	171	
	権利関係	所有権 農地中間管理権	所有権	—	所有権	—	—		
	備 考 (関係戸数)	(29)	原野、雑種地、個人所有 の道水路 (13)	—	市道・法定外公共物 (1)	—	—	(43)	

第3節 水 利 状 況

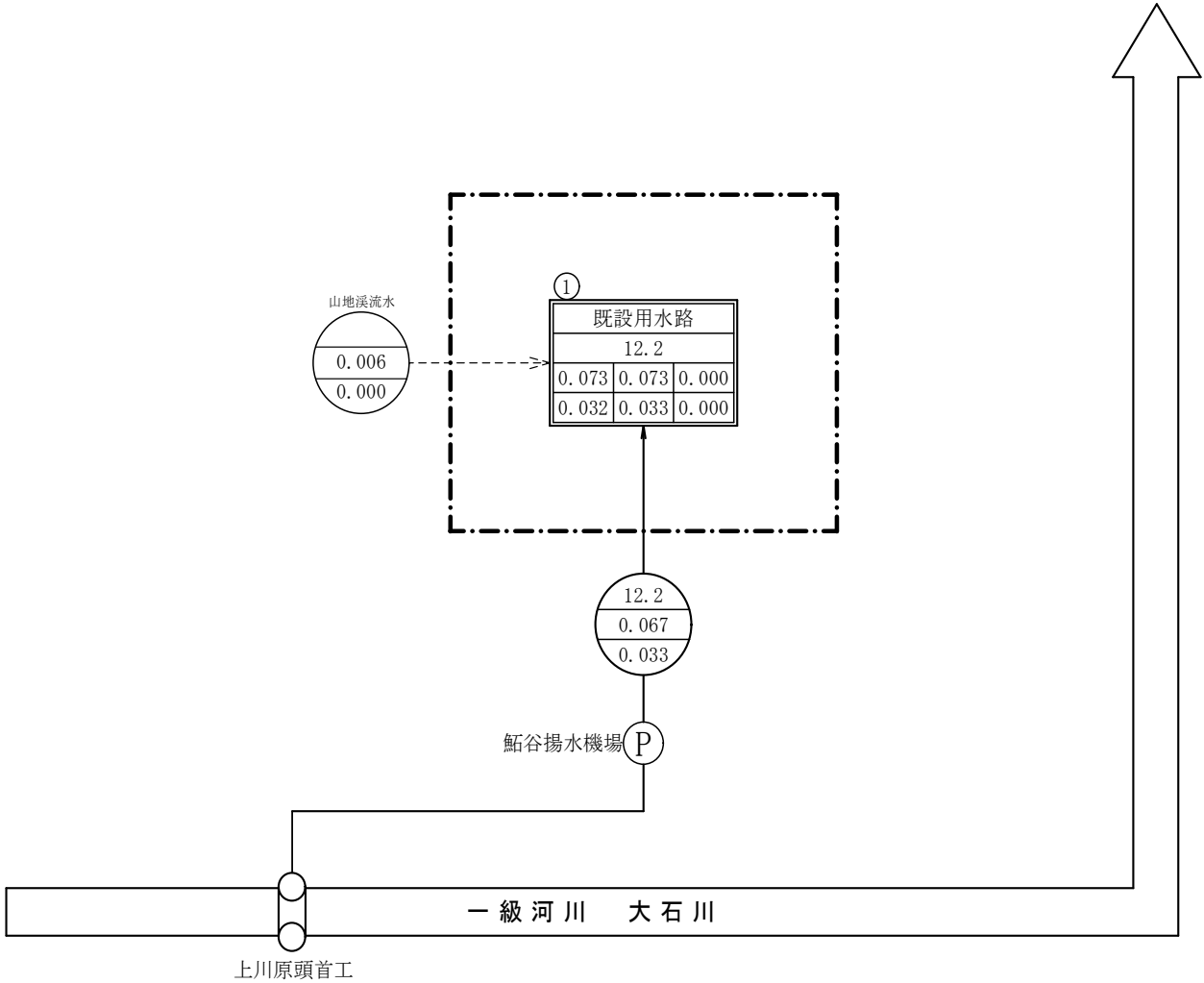
1. 用水状況

本地区の現況用水は、山地溪流水及び一級河川大石川に設置された上川原頭首工より取水し、鯉谷揚水機場から圧送された後、小用水路を通じ供給される用水によりかんがいしている。

(1) 用水系統

現況用水系統模式図のとおり。

現況用水系統模式図



凡 例

— · — · — · — · —

←

路 線 名		
面 積		
(ハ)	(ニ)	(ト)
(ホ)	(ヘ)	(ト)

面 積
(口)
(ハ)

面 積
(口)
(ハ)

地 区 界

用 水 路

地 区 内

(ハ) 代播期所要水量

(ニ) 代播期利用可能水量

(ホ) 普通期所要水量

(ヘ) 普通期利用可能水量

(ト) 不足水量

地 区 外

通 水 量

(口) 代播期

(ハ) 普通期

選 元 水 量

(口) 代播期

(ハ) 普通期

(2) 用水施設

(ア) 取水方法一覧表

(第5表-1)

事業名	項目 施設名	かんがい面積						計		許可水利権		慣行水利権等		延べ取水量	備 考
		500ha 以上		500ha～100ha		100ha 未満									
		箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	m³/s	箇所	m³/s	m³/s	
水 農 区 施設 業 画 整備 用 整 備 排 理・	揚 水 機	—	—	—	—	1	12.2	1	12.2	—	—	1	0.067 0.033	0.067 0.033	山地溪流水
	そ の 他	—	—	—	—	1	(12.2)	1	(12.2)	—	—	1	0.006 0.000	0.006 0.000	
合 計		—	—	—	—	2	12.2	2	12.2	—	—	2	0.073 0.033	0.073 0.033	

※ 上段：代掻期，下段：普通期

※ () は重複受益である。

(イ) 改修を要する施設一覧表

(第5表-2)

事業名	項目 施設名	施設名又は箇所数	受益面積 (ha)	構 造	規 模	新設年度 又は更新年度	改修を必要 とする理由	備 考
農業用排水施設整備	揚水機	1	12.2	横軸ポンプ	φ250mm×110kw、0.11 m ³ /sec	昭和43年度	区画整理に伴う改修	
	送水管 (用水路)	1	(12.2)	鋼管	φ200mm、L=0.1km	昭和40年代	区画整理に伴う改修	
	用水路	1	(12.2)	U300	U300、L=0.1km	昭和40年代	区画整理に伴う改修	
合 計		3	12.2	—	—	—	—	

※ () は重複受益である。

(3) 用水に関する被害状況

該当なし

(4) ため池決壊の場合の想定被害状況

該当なし

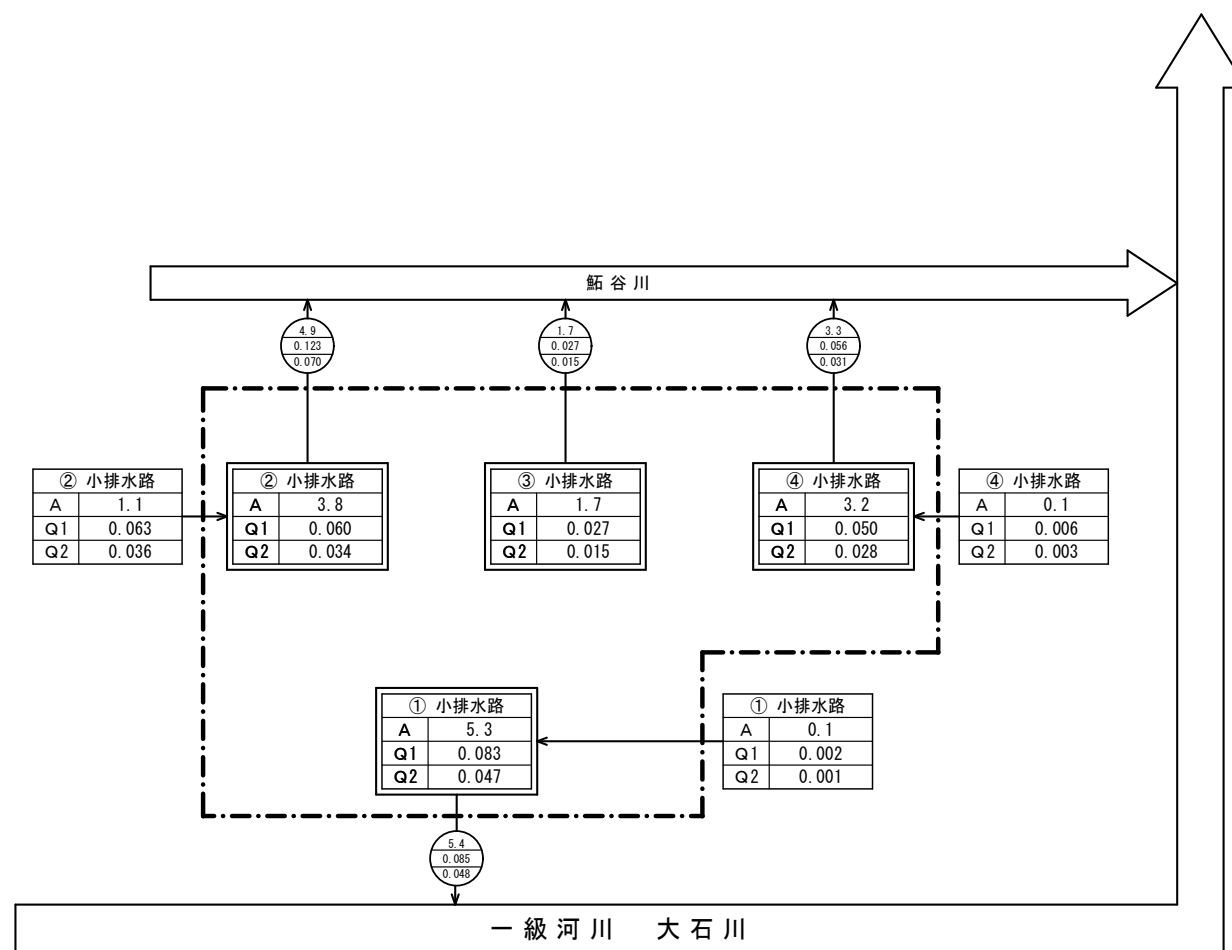
2. 排水状況

本地区の現況排水は、小排水路を経由して一級河川大石川及び鯰谷川へ排水している。

(1) 排水系統

現況排水系統模式図のとおり。

現況排水系統模式図



(2) 排水施設

(ア) 排水方法一覧表

(第5表-4)

事業名	項 目 施 設 名		排 水 面 積						計		排水慣行 (m³/s)		現況排水能力 (m³/s)		備 考
			500ha 以上		500ha～100ha		100ha 未満								
			箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha					
区画整理	自然	排 水 路	—	—	—	—	1	15.3	1	15.3	—	0.291	—	0.291	
	機械	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
合計			—	—	—	—	1	15.3	1	15.3	—	0.291	—	0.291	

(イ) 改修を要する施設一覧表
該当なし

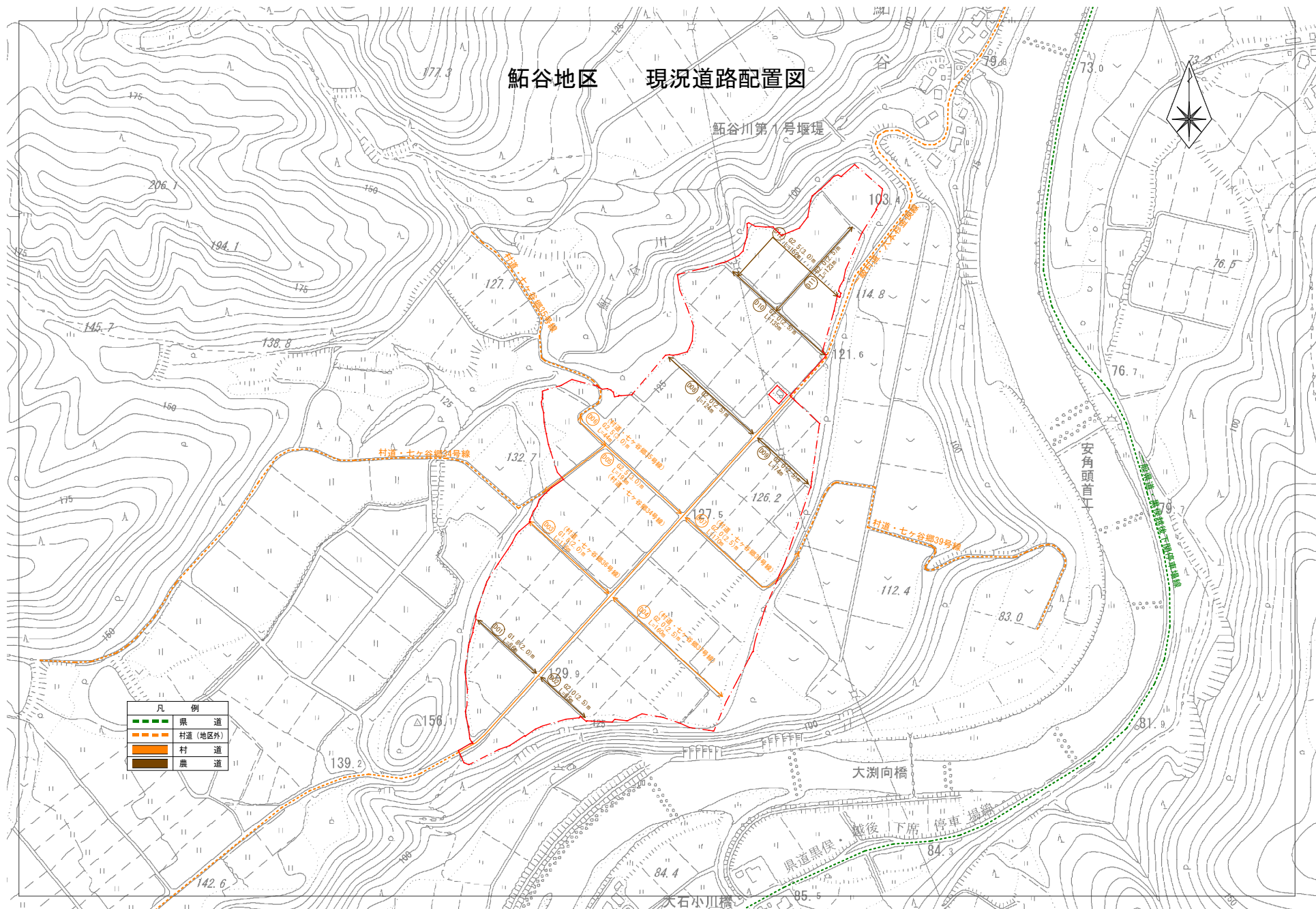
(3) 排水に関する被害状況
該当なし

3. 河川状況
該当なし

第4節 道路概況

1. 道路概況（現況道路配置図参照）

本地区は、南西側から北東側へ一級村道六本杉金俣線が通過している。その他村道や農道も配置されているが、幅員が非常に狭く耕作機械のすれ違い等に支障を来している。



2. 主要道路一覧表

(第6表)

番号	路 線 名	管理区分別	延 長 (km)	幅 員 (m)		構 造	改修の要否	備 考
				全 幅	有 効			
—	村 道	関川村	0.8	2.5～4.0	2.0～3.0	砂利	要：改修及び廃止	
						A s	否：既設利用	
	農 道	土地改良区	1.2	2.5	2.0	砂利	要：改修及び廃止	

第5節 地域農業の概況

1. 産業別就業人口

(令和2年 国勢調査) (第7表-1)

項目	総数	農業	林業	漁業	鉱、砕石、砂利採取業	建設業	製造業	電気ガス熱供給水道業	運輸通信業	卸売小売業	金融保険業	不動産・物品賃貸業	サービス業	公務	その他	備考
市町村名	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	
関川村	2,656	433	21	—	3	268	527	19	80	297	20	4	871	113	—	
計	2,656	433	21	—	3	268	527	19	80	297	20	4	871	113	—	
比率 (%)	100.0	16.3	0.8	—	0.1	10.1	19.8	0.7	3.0	11.2	0.8	0.1	32.8	4.3	—	

2. 経営耕地広狭別経営体数及び耕地の分散状況並びに農業経営体数

(令和2年 農林業センサス) (第7表-2)

区分市町村名	経営体数 (経営体)	経営耕地広狭別経営数 (経営体)											1経営体当たり平均農用地面積 (ha)						耕地の分散状況		農業経営体数 (経営体)			備考
		例外規定の適用を受けるもの	0.3～0.5	0.5～1.0	1.0～1.5	1.5～2.0	2.0～3.0	3.0～5.0	5.0～10.0	10.0～20.0	20.0ha以上	自給的農家	田	畑	樹園地	小計	草地	計	一経営体当たり団地数	団地当たり面積 (ha)	個人経営体	団体経営体(法人)	団体経営体(非法人)	
関川村	408	11	37	61	66	62	60	65	30	11	5	—	2.62	0.07	0.00	2.69	0.04	2.73	—	—	394	14	—	
計	408	11	37	61	66	62	60	65	30	11	5	—	2.62	0.07	0.00	2.69	0.04	2.73	—	—	394	14	—	
比率 (%)	100.0	2.7	9.1	14.9	16.2	15.2	14.7	15.9	7.4	2.7	1.2	—	96.0	2.5	0.00	98.5	1.5	100.0	—	—	96.6	3.4	—	

3. 動力農機具及び主要家畜頭数

(令和2年 農林業センサス) (第7表-3)

市町村名	動力農機具								主要家畜								備考
	耕うん機		トラクター		動力田植機		コンバイン		乳用牛		肉用牛		豚		採卵鶏		
	数 量 (台)	経営体数 (経営体)	数 量 (台)	経営体数 (経営体)	数 量 (台)	経営体数 (経営体)	数 量 (台)	経営体数 (経営体)	数 量 (頭)	経営体数 (経営体)	数 量 (頭)	経営体数 (経営体)	数 量 (頭)	経営体数 (経営体)	数 量 (100羽)	経営体数 (経営体)	
関川村	—	—	—	—	—	—	—	—	x	1	x	5	x	3	x	2	
計	—	—	—	—	—	—	—	—	x	1	x	5	x	3	x	2	
100経営体当たり数量 (台・頭・100羽)	—		—		—		—		x		x		x		x		
利用経営体数割合(%)	—		—		—		—		0.2		1.2		0.7		0.5		

4. 主要作物作付状況

(R4～5年、R5～6年 北陸農林水産統計年報) (第7表－4)

市 町 村 名			関川村		計		作 付 率 (%)	備 考
総 耕 地 面 積 (ha)			1,270		1,270			
総 本 地 面 積 (ha)			1,213		1,213			
区 分 作物名			作付面積 (ha)	単 位 面 積 当たり収量 (kg/10a)	作付面積 (ha)	単 位 面 積 当たり収量 (kg/10a)		
田	表 作	水 稻	951	505	951	505	98.0	令和5年度の データで統一。
	表 作	大 豆	1	43	1	43	0.1	
	表 作	そ ば	18	11	18	11	1.9	
	小 計		970		970		100.0	
畑	春夏作							
	秋冬作							
	小 計							
樹園地								
	小 計							
計			970		970		100.0	
市町村別延べ作付率 (%)			100.0		100.0			

5. 農業の動向

(H22年～R2年 農林業センサス) (第7表-5)

項目 区分	経 営 体			土 地			主 要 作 物			大 家 畜			動 力 農 機 具			地 域 指定等	備 考
		B	A		B	A	作物名	B	A	家畜名	B	A	農機具名	B	A		
変化の状況 (C年を100とする指数)	農 業 経 営 体	82	66	耕 地	89	81	水 稻	x	106	乳用牛	x	x	自 動 耕うん機	-	-	農業振興地域 (指定) S48. 7. 18 (認可) S49. 4. 15	A：令和2年 (2020) B：平成27年 (2015) C：平成22年 (2010)
	個 人 経 営 体	82	65	田	95	87	イモ類	—	x	肉用牛	x	x	トラクター	84	-		
	団 体 経 営 体 (法 人 数)	93	100	畑	42	32	豆 類	300	x	豚	111	x	コンバイン	84	-		
	団 体 経 営 体 (非 法 人 数)	100	—	樹園地	200	100	野菜類	x	78	鶏	x	x	動力 田植機	84	-		
	農 従 事 者 業 数	76	55														
変 化 の 理 由	農業情勢の変化 経営形態の変化 大規模化の進展			農業情勢の変化 農地転用の増加			食生活の変化			食生活の変化 生産者の高齢化			農業経営形態の変化 機械の大型化				

第6節 地域環境の概況

本地区は、関川村の南西部に位置し、地区の南から北へ一級河川大石川が流下している。地区内のほ場には多種の生物が確認されている。

令和5年9月2日に行われた『生き物調査』では、計画地区周辺において昆虫類（ヤゴ、ゲンゴロウ、ガムシ、マツモムシ、コオイムシ）、両生類（トノサマガエル、ツチガエル、アカハライモリ）、魚類（ドジョウ、ホトケドジョウ、メダカ）、甲殻類（ヌカエビ）、貝類（オオタニシ、マルタニシ、ヒメタニシ、カワニナ）、植物（ヒツジグサ）、ヒル類（ヒル）の全18種が確認されている。

第4章 一 般 計 画

第1節 事業計画の要旨

1. 要 旨

本計画は、区画整理事業及び農業用排水施設整備事業 10.8ha を施行して、ほ場の大区画化を図り、労働生産性の向上を目指し、農地の集積、経営規模の拡大を実施するとともに、高収益作物の栽培により、安定した農業経営を確立するものである。

区画割りは、将来の営農体系等を勘案して、0.66ha 区画（長辺 110m×短辺 60m）を基本とし整備を行う。道路計画は支線道路として全幅 5.0 m（有効幅員 4.0m）の敷砂利舗装を基本とする。用水計画は、水の有効利用及び水管理の合理化を図るためにパイプラインかんがい方式を基本とする。排水計画は地区外流入がなく、ほ場内排水のみの区域は管水路とし、地区外流域から排水が流入する路線は開水路とする。

2. 事業別面積

(第8表)

事業名 土地 利用区分 事業目的	区画整理・農業用排水施設整備							計 (ha)	備 考
	水 田 (ha)	普 通 畑 (ha)	牧 草 畑 (ha)	果 樹 園 (ha)	道 水 路 (ha)	そ の 他 (ha)	小 計 (ha)		
区画整理	10.8	—	—	—	—	—	10.8	10.8	
農業用排水 施設整備	(10.8)	—	—	—	—	—	(10.8)	(10.8)	※区画整理事業と重複
計	10.8	—	—	—	—	—	10.8	10.8	

※（ ）は重複受益である。

第2節 営農計画及び土地利用計画

1. 営農計画の概要

- a)

経営方式

水稻転作複合

水稻、こんにゃくいも
- b)

経営組織

組織経営体による効率的な複合営農の実現を図る。
- c)

作業体系（水稻）

耕起整地
ロータリー
ハロー

→

基肥
マニユアスプレッダー
ブロードキャスター

→

植付
動力田植機

→

除草防除
動力散布機

→

収穫調製
コンバイン
乾燥機

2. 土地利用区分

(第9表－1)

事業名	土地利用 区分	耕 地							道路 (ha)	水路 (ha)	原 野 (ha)	山 林 (ha)	計 (ha)	備 考
		水 田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	茶園 (ha)	その他の 樹園地 (ha)	小 計 (ha)						
区画整理	現 況	12.2	0.0	－	－	－	－	12.2	0.8	0.6	0.4	－	14.0	
	計 画	10.8	－	－	－	－	－	10.8	2.5	0.5	0.2	－	14.0	
農業用 用排水 施設整備	現 況	(12.2)	(0.0)	－	－	－	－	(12.2)	－	－	－	－	(12.2)	※区画整理事業 と重複
	計 画	(10.8)	－	－	－	－	－	(10.8)	－	－	－	－	(10.8)	※区画整理事業 と重複
計	現 況	12.2	0.0	－	－	－	－	12.2	0.8	0.6	0.4	－	14.0	
	計 画	10.8	－	－	－	－	－	10.8	2.5	0.5	0.2	－	14.0	

※（ ）は重複受益である。

3. 作付方式

(第9表-2)

事業名	項目	経営 類型	土地 利用 区分	作物名	1年目												2年目												3年目												備考							
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12								
区画整理・農業用排水施設整備	現況	水稻転作複合	水田	主食用米				○	○	△	△							×	×																													
				加工用米				○	○	△	△																																					
				飼料用米				○	○	△	△																																					
				そば										○	○																																	
				こんにゃくいも							△	△																																				
	計画	水稻転作複合	普通畑																																													
				主食用米				○	○	△	△																																					
				加工用米				○	○	△	△																																					
				飼料用米				○	○	△	△																																					
				こんにゃくいも							△	△																																				

○:播種 △:定植 ×:収穫

4. 生産計画

(第9表-3)

事業名	項目 土地 利用区分		作物名	作 付 面 積 (ha)			作 付 率 (%)		単位面積当たり 収 量 (kg/10a)			生 産 量 (t)			同左生産量増減 の内訳 (t)		備考
				現 況	計 画	増 減	現 況	計 画	現 況	計 画	増 減	現 況	計 画	増 減	面積増減	単位面積 当たり 収量増加	
区 画 整 理 ・ 農 業 用 用 排 水 施 設 整 備	水 田	表 作	主食用米	4.5	4.5	0.0	38.4	43.7	513	523	10	23.1	23.5	0.4	—	0.4	
			加工用米	1.2	2.6	1.4	10.2	25.2	552	563	11	6.6	14.6	8.0	7.7	0.3	
			飼料用米	1.1	2.8	1.7	9.4	27.2	574	585	11	6.3	16.4	10.1	9.8	0.3	
			そば	4.0	—	△4.0	34.1	—	41	—	△41	1.6	—	△1.6	△1.6	—	
			こんにゃくいも	0.02	0.4	0.4	0.2	3.9	2,413	2,775	362	0.5	11.1	10.6	9.2	1.4	
			わらび(自家消費)	0.1	—	△0.1	0.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
			自己保全管理	0.8	—	△0.8	6.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	普 通 畑	春夏作															
	計				11.7	10.3	△1.4	100.0	100.0								
合 計				11.7	10.3	△1.4	100.0	100.0									

5. 労働改善計画

(第9表－4)

事業名	項目 土地 利用 区分	作物名	作付面積 (ha)	単位面積当たり労働投下量（時/10a）				備 考	
				区 分	現 況	計 画	増 減		
区画整理・農業用排水施設整備	田	主食用米 加工用米	3.4	人 力	30.0	12.9	△ 17.1	担い手→法人 区画面積 50a	
				機械力	16.0	5.9	△ 10.1		
		主食用米 加工用米 飼料用米	3.3	人 力	40.3	12.9	△ 27.4	その他農家→法人 区画面積 50a	
				機械力	21.3	5.9	△ 15.4		
		主食用米 加工用米 飼料用米	3.2	人 力	40.3	13.2	△ 27.1	その他農家→法人 区画面積 30a	
				機械力	21.3	6.1	△ 15.2		
		計		9.9	—	—	—	—	
		合 計		9.9	—	—	—	—	

6. 級地別土地利用区分
該当なし

7. 土地配分計画
該当なし

第3節 用 水 計 画

1. 計画基準年

基準年	平成27年（1／10確率）
決定理由	気象庁HPデータ（下関観測所） 1/10確率雨量の近似年

2. 計画かんがい方式

a) かんがい期間

水 稲	：	5 月 1 日～8 月 31 日（代掻	5 月 1 日～5 月 5 日）	計	123 日
畑作物	：	5 月 1 日～8 月 31 日			

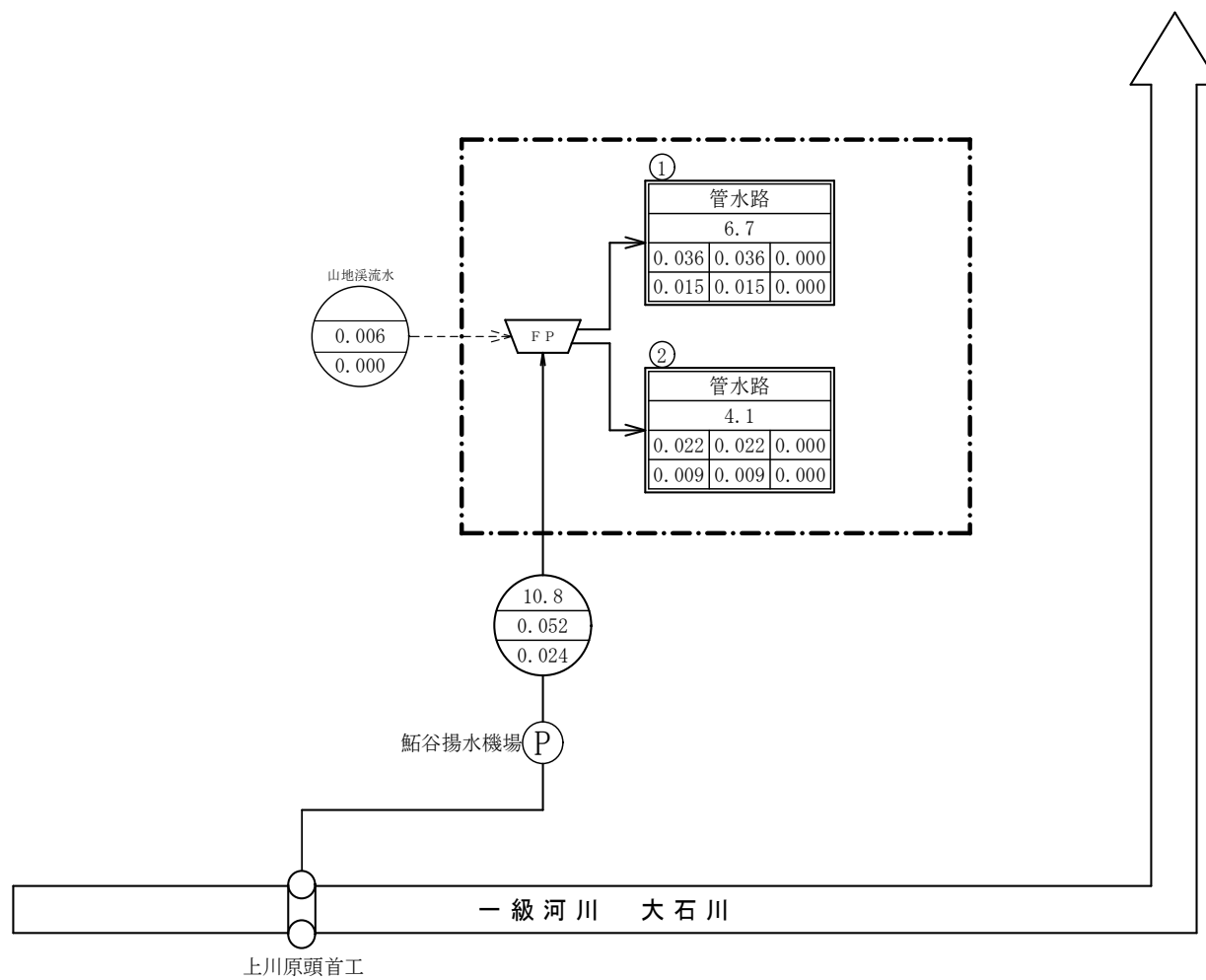
b) かんがい方式期間

水 稲	：	一筆毎の田面貯留方式
畑作物	：	畝間かんがい

3. 計画用水系統

計画用水系統模式図のとおり。

計画用水系統模式図



凡 例	
	地区界
	用水路
路線名 面積 (ハ) (ニ) (ト) (ホ) (ヘ) (ロ)	地区内
	(ハ) 代播期所要水量
	(ニ) 代播期利用可能水量
	(ホ) 普通期所要水量
	(ヘ) 普通期利用可能水量
	(ト) 不足量
	地区外
面積 (ロ) (ハ)	通水量
	(ロ) 代播期
	(ハ) 普通期
面積 (ロ) (ハ)	還元水量
	(ロ) 代播期
	(ハ) 普通期

4. 計画用水量

(1) かんがい用水

(第10表-1)

項目 系統名	種別	面積 (ha)			水田かんがい			水田畑利用			畑地かんがい			その他		消費 水量	損 失 率	粗用水量		備考
		事業名			普通期 単位 計画 平均 用水量 (mm/日)	代かき期 単位 計画 代かき 用水量 (mm)	面 積 (ha)	一日 当たり 計画 平均 かん水 深 (mm/日)	平均 間断 日数 (日)	面 積 (ha)	一日 当たり 計画 平均 かん水 深 (mm/日)	平均 間断 日数 (日)	面 積 (ha)	計画 平均 単位 用水量 (mm/日)	面 積 (ha)			平均	最大	
		区 画 整 理	農 業 用 用 排 水 施 設 整 備	計																
一級河川 大石川	農業 用水	10.8	(10.8)	10.8	16.2	150	10.4	5	3	0.4	—	—	—	—	—	0.052	10	0.024	0.058	
計		10.8	(10.8)	10.8	—	—	10.4	—	—	0.4	—	—	—	—	—	0.052	10	0.024	0.058	

※ () は重複受益である。

(2) 営農飲雑用水

該当なし

5. 水源計画

(1) 水利用計画

(第10表-2)

項目 区分		消費水量 (千m³)	有効雨量 (千m³)	純用水量 $c = a - b$ (千m³)	粗用水量 $d = c / (1 - \alpha)$ (千m³)	現況利用可能水量			不 足 水 量		水源依存量		水源 工種	備考 損失率 : α
						水源名	取 水 地 利用 可 能 量	ほ場利用 可 能 量	純不足 水 量	全不足 水 量	水源名	水 量		
							e (千m³)	f (千m³)	$g = c - f$ (千m³)	$h = d - e$ (千m³)		(千m³)		
施設 区画 整理 整備 ・ 農業 用 用 排 水	水田かんがい	227	—	227	252	一級河川 大石川	252	252	—	—	一級河川 大石川	252	河川	10%
	計	227	—	227	252	—	252	252	—	—	—	252	—	

(2) 用水対策
(ア) 貯水池
該当なし

(イ) 井堰及び自然取入口
該当なし

(ウ) 揚水機

(第10表－3)

項目 名称	水源名	かんがい面積 (ha)			所要水量(m³/ s)		揚 水 機				備 考
		事 業 名									
		区画整理	農業用排水施設整備	計	最大	平均	実揚程 (m)	揚水量 (m³/s)	台数 (台)	全揚水量 (m³/s)	
鮎谷揚水機場	一級河川大石川	(10.8)	10.8	10.8	0.052	0.024	50.50	0.026	2	0.052	
計	—	(10.8)	10.8	10.8	0.052	0.024	50.50	0.026	2	0.052	

※ () は重複受益である。

(エ) 用水路

(第10表－4)

項目 名 称	かんがい面積 (ha)			最大通水量 (m³/s)	延 長 (km)	構 造	備 考
	事 業 名						
	区画整理	農業用排水 施設整備	計				
小用水路（管水路）	10.8	—	10.8	0.058	1.8	塩ビ管 VUφ100～φ250 mm	
送水管（管水路）	—	(10.8)	(10.8)	0.052	0.1	圧力用高密度ポリエチレン管φ200 mm	
導水路（開水路）	—	(10.8)	(10.8)	0.006	0.1	ベンチフリューム300型	
計	10.8	(10.8)	10.8	—	2.0	—	

※ () は重複受益である。

(オ) その他の水源施設
該当なし

(3) 水温水質
該当なし

第4節 排水計画

1. 計画基準雨量

最大日雨量	169.9 mm (1/10 確率)	} 下関観測所 1953～2023 年
最大日雨量	96.2 mm (1/2 確率)	

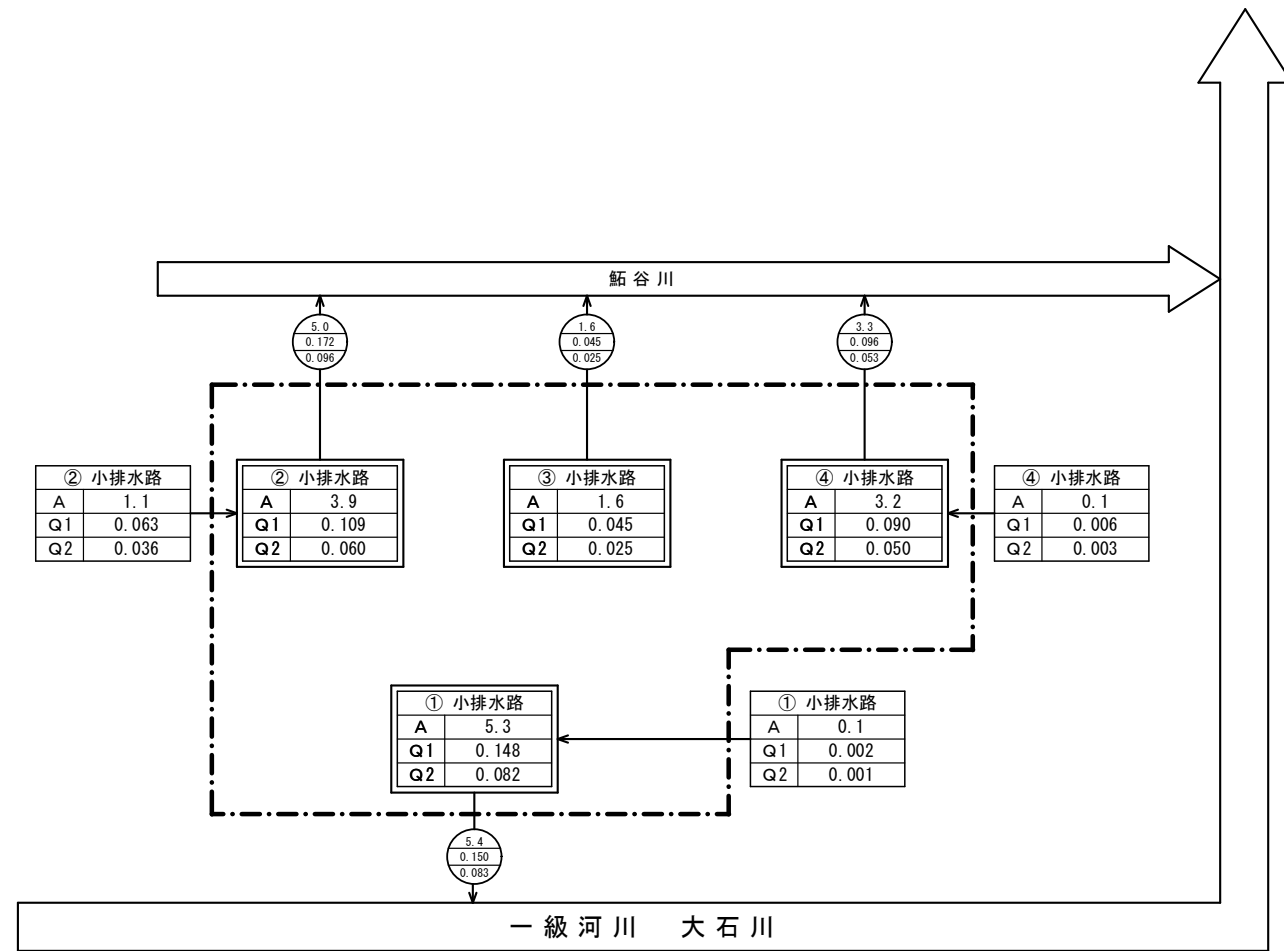
2. 計画排水方式

開水路（排水フリーム）及び管排水路（塩ビ管）による自然排水方式

3. 計画排水系統

計画排水系統模式図のとおり。

計画排水系統模式図



4. 計画排水量

(第11表-1)

項目 排水系統名	受益面積 (ha)		流域面積 (km ²)		基準 雨量 (mm)	降雨による 直接単位流出量 (m ³ /s/km ²)		基底流出量 (m ³ /s/km ²)		全排水量 (m ³ /s)			単位排水量 (m ³ / s /km ²)		備 考
	事業名									山 地	平 地				
	区画 整理	計									自然排水	機械排水	山 地	平 地	
			山 地	平 地		山 地	平 地								
一級河川 大石川	14.0	14.0	0.012	0.141	169.9	5.70	2.80	—	—	0.068	0.395	—	5.70	2.80	
計	14.0	14.0	0.012	0.141						0.068	0.395	—	5.70	2.80	

5. 排水対策

(1) 排水水門
該当なし

(2) 排水機
該当なし

(3) 排水路

(第11表-2)

項目 名称	流域面積 (km ²)	受益面積 (ha)		計画 排水量 (m ³ /s)	延長 (km)	構 造	排水本川			備考
		事業名					名称	計画 洪水量 (m ³ /s)	計画 洪水位 (m)	
		区画整理	計							
小排水路	0.017～0.050	10.8	10.8	0.026～0.172	0.7	排水フリューム HF300×300～400×400mm	—	—	—	
管排水路	0.005～0.037	(10.8)	(10.8)	0.008～0.104	0.6	塩ビ管 VU φ200～300mm	—	—	—	
計	—	10.8	10.8	—	1.3	—	—	—	—	

※ () は重複受益である。

- (4) その他
該当なし

6. 湛水検討
該当なし

第5節 道 路 計 画

1. 道路及び索道

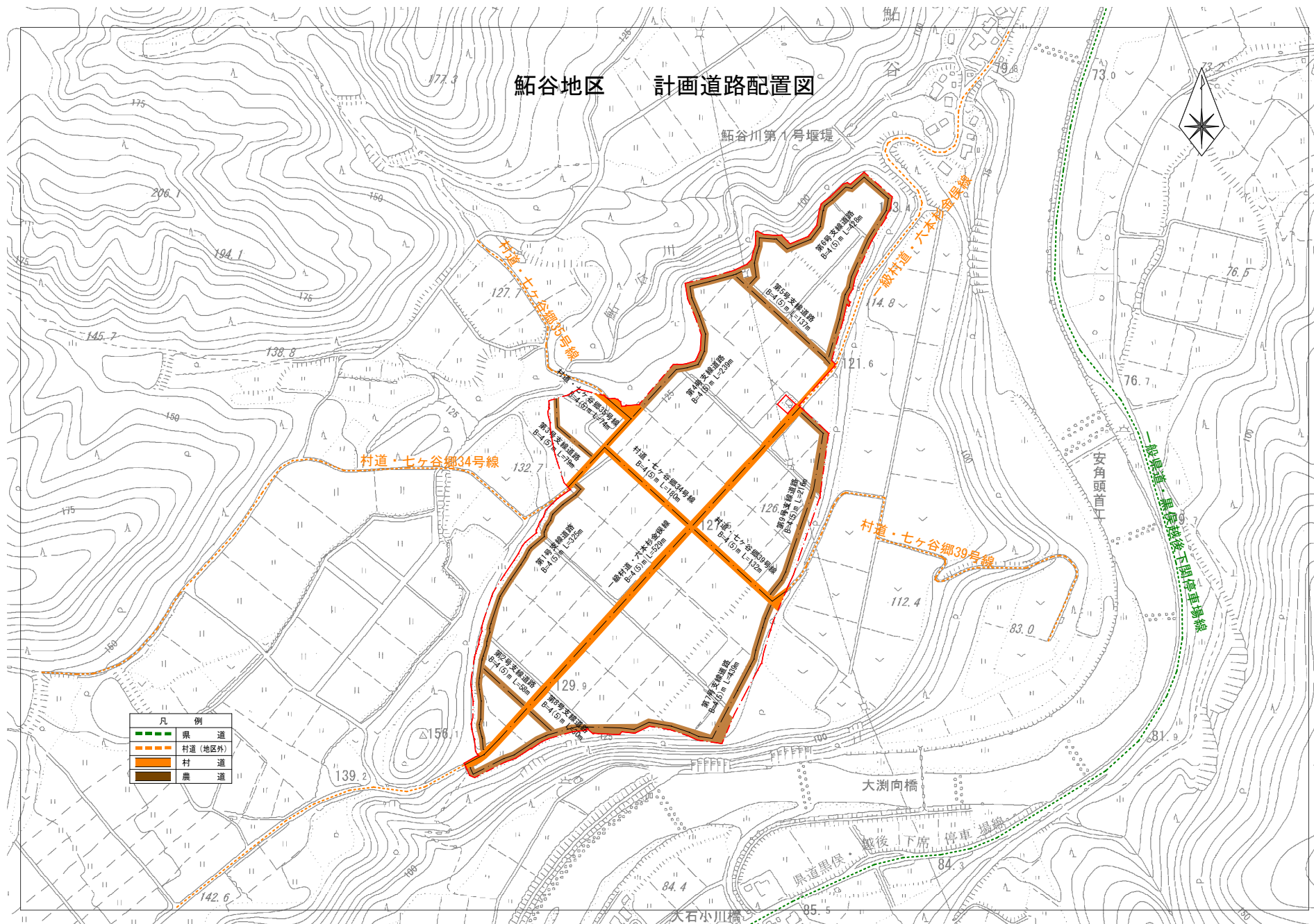
- (1) 道路

(第12表-1)

番号	項 目 路 線 名	幅 (有効) (m)	× 延 長 (km)	構 造	既設道路との関係	備 考
1	支線道路	5.0(4.0)	× 2.9	道路高 0.3m～ 側法 1 : 1.0～ 敷砂利舗装 流用土	村道、支線道路と接続	

- (2) 索道
該当なし

2. 路線配置図
計画道路配置図のとおり。



第6節 農用地造成計画

該当なし

第7節 洪水調節計画

該当なし

第8節 干拓計画

該当なし

第9節 農用地整備計画

1. 区画整理

(1) 区画の形状 (第16表-1)

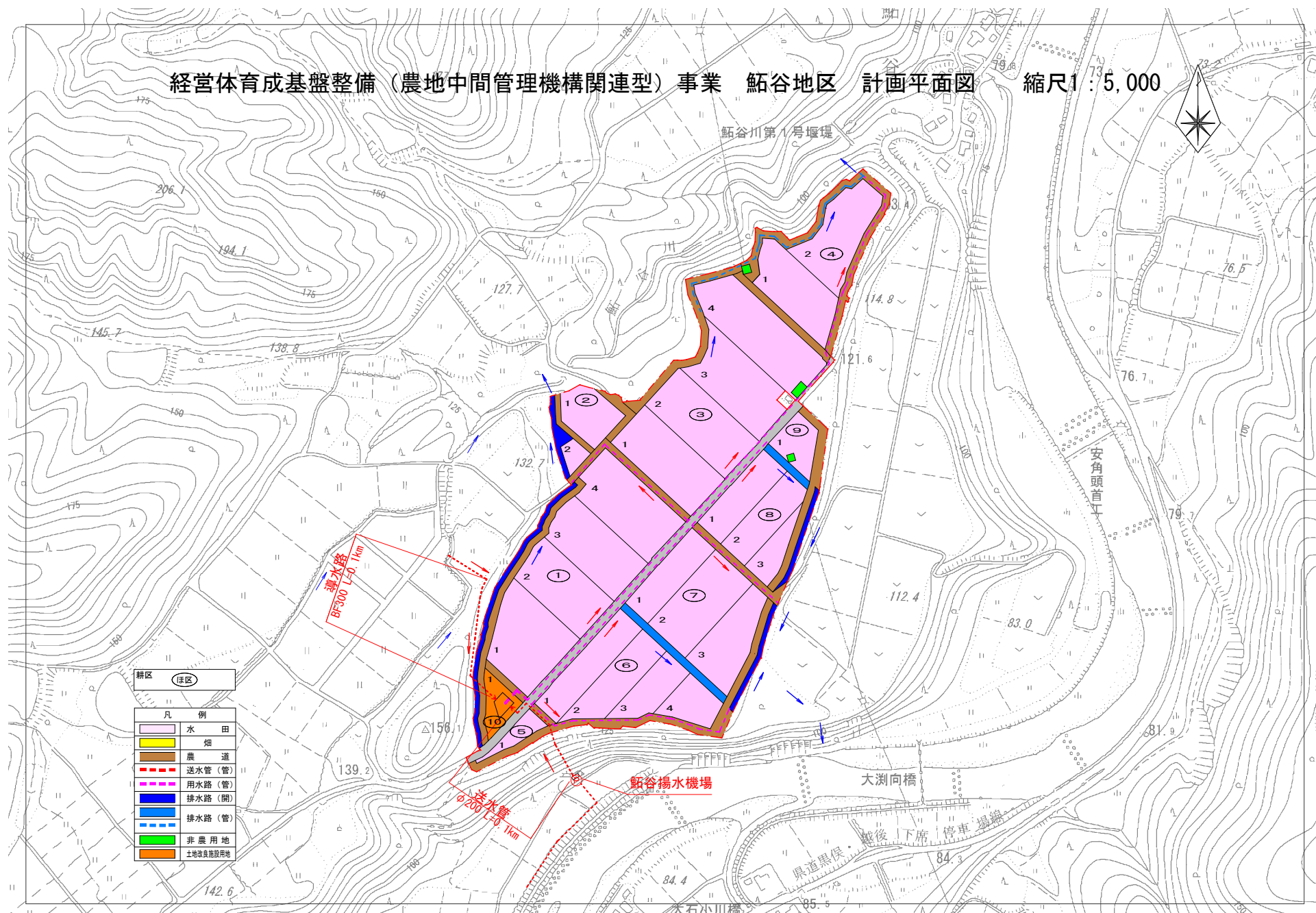
長 辺 × 短 辺 (m)	区 画 面 積 (ha)	全 体 面 積 (ha)	割 合 (%)	田 面 差 (m)	備 考
110×60	0.5～1.0	7.0	64.8	平均1.0	
不整形	～0.5	3.8	35.2	平均1.0	
計		10.8	100.0		

(2) 表土扱い (第16表-2)

面 積 (ha)	表 土 扱 い 要 否 の 理 由	扱 い 深 (cm)	土 量 (m³)	備 考
10.8	基盤切り盛りを行うため	15	16,200	

(3) 末端道水路配置図
計画平面図のとおり。

経営体育成基盤整備（農地中間管理機構関連型）事業 鮎谷地区 計画平面図 縮尺1：5,000



2. 暗渠排水
該当なし

3. 客 土
該当なし

4. 農地保全
該当なし

第10節 老朽ため池改修計画

該当なし

第5章 主要工事計画

第1節 用水施設

1. 貯水池
該当なし

2. 頭首工
該当なし

3. 揚水機 (第17表-3)

項目 水路名	位置	揚水量 (m^3/s)	揚程 (m)		揚水機			原動機			備考
			全揚程	実揚程	型式	口径 (mm)	台数 (台)	型式	動力 (kw)	台数 (台)	
鮎谷揚水機場	陸上	0.052	53.00	50.50	横軸	125	2	片吸込多段	22	2	
計	—	0.052	53.00	50.50	—	125	2	—	22	2	

4. 用水路 (第17表-4)

項 目 水路名	かんがい面積 (ha)			通 水 量 (m^3/s)	延 長 (km)			構 造	勾配	主要構造 物	備考
	事 業 名				開きよ	トンネル その他	計				
	区画整理	農業用排水 施設整備	計								
小用水路 (管水路)	10.8	—	10.8	0.024~0.058	—	1.8	1.8	塩ビ管 VU ϕ 100~250mm	—	—	
ファームpond	(10.8)	—	(10.8)	—	—	—	—	土羽 (遮水シート張り) 底部 RC 構造	—	第1号FP	
送水管 (管水路)	—	(10.8)	(10.8)	0.024~0.052	—	0.1	0.1	圧力用高密度ポリエチレ ン管 ϕ 200 mm	—	—	
導水管 (開水路)	—	(10.8)	(10.8)	0.006~0.006	0.1	—	0.1	ベンチフリューム 300 型	1/100	—	
計	10.8	(10.8)	10.8	—	0.1	1.9	2.0	—	—	—	

※ () は重複受益である。

5. その他かんがい施設
水管理省力化システム

※揚水機場、用水路、ファームpondに加え、水管理省力化システムについても、関川村土地改良区が維持管理計画書に基づき適切な管理を行う。

第2節 排水施設

1. 排水水門
該当なし

2. 排水機
該当なし

3. 排水路

(第18表-3)

項目 水路名	受益面積 (ha)		排水量 (m³/s)	延長 (km)			構造	勾配	主要構造物	備考
	事業名			開きよ	トンネル その他	計				
	区画整理	計								
小排水路	10.8	10.8	0.026～0.172	0.7	—	0.7	排水フリューム HF300×300～400×400mm	1/100	暗渠工	
管排水路	(10.8)	(10.8)	0.008～0.104	—	0.6	0.6	塩ビ管 VUφ200～φ300mm	1/30～1/80	点検工	
計	10.8	10.8	—	0.7	0.6	1.3				

※ () は重複受益である。

4. その他排水施設
該当なし

第3節 道路及び索道

1. 道 路

(1) 道路の総括表

(第19表－1)

項目 区分	路 線 名	幅 (有効) ×延長 (m) (km)	構 造	付 帯 構 造 物			最 急 勾 配 (%)	同左の 延 長 (m)	最小曲線 半 径 (m)	備 考
				名 称	構 造	数 量 (箇所)				
支線道路	支線道路	5.0 (4.0) × 2.9	道路高 0.3m～ 側法 1: 1.0～ 敷砂利舗装 流用土	—	—	—	平 坦	—	—	—
計	—	2.9	—	—	—	—	—	—	—	—

(2) 道路主要構造物
該当なし

2. 索 道
該当なし

第4節 農用地造成

該当なし

第5節 洪水調節施設

該当なし

第6節 干拓施設

該当なし

第7節 農用地整備施設

1. 区画整理

(1) 区画整理 (第23表-1)

工 区 名	面 積 (ha)	整 地 工		表 土 扱 い		備 考
		標準区画	土 量 (m³)	面 積 (ha)	土 量 (m³)	
水 田	10.8	110×60m、0.66ha	—	10.8	16,200	
畑	—	—	—	—	—	
計	10.8	—	—	10.8	16,200	

(2) 末端用水路等 (第23表-2)

項 目 区 分	数 量	規 模	構 造	備 考
小用水路 (管水路)	1.8 km	0.024～0.058 (m³/s)	塩ビ管 VU φ100～250 mm	
計	1.8 km	—	—	

(3) 末端排水路等 (第23表-3)

項 目 区 分	数 量	規 模	構 造	備 考
小排水路 (開水路)	0.7 km	0.026～0.172 (m³/s)	排水フリューム HF300×300～400×400mm	
小排水路 (管水路)	0.6 km	0.008～0.104 (m³/s)	塩ビ管 VU φ200～300mm	
計	1.3 km	—	—	

- 2. 暗渠排水
該当なし
- 3. 客土
該当なし
- 4. 除礫
該当なし
- 5. 農地保全
該当なし

第8節 老朽ため池改修施設

該当なし

第6章 附帯工事計画

該当なし

第7章 工事の着手及び完了の予定時期

工 期

着手予定	令和 8年度
完了予定	令和 13年度

第8章 環境との調和への配慮

第1節 保全対象種の設定

令和5年9月2日に行われた『生き物調査』において確認されたドジョウとトノサマガエルは、絶滅が危惧され、本地区の良好な生息環境の環境指標となるため保全対象種に設定する。

第2節 整備する環境条件と実施するエリア

『関川村田園環境マスタープラン』において、本地区は環境配慮区域となっている。本地区を含む関川村農村地域において農業農村整備を行う場合は、下記の環境に調和した整備のあり方が示されており、本地区の整備はこの考え方に基づいた計画とする。

- ・水質保全、景観、生態系に配慮した整備
- ・耕作放棄地と他の農地との一体的な整備による、農地の環境保全能力等公益的な機能の維持増進
- ・既存史跡、樹木の保全
- ・親水利用や生態系に配慮した農業用水路の整備
- ・土地改良区と連携し、地元住民が主体となった日常管理の実施

第3節 配慮の計画内容

本地区では環境配慮対策として以下の対策を講じる。

- ・現況（池沼）を水路敷地として残すことにより、動植物の生息環境・繁殖空間を確保する。

第9章 換地計画の概要

第1節 換地計画を作成する上での基本的な考え方

本事業を契機に、農用地の集団化向上はもとより、地域農業の発展に資するように換地計画を樹立する。
特に同計画をもとに地元地権者との合意を図り、望ましい経営体に円滑的に連担的農地として集積されるよう換地選定を行う。

第2節 換地区の設定

1. 換地区の名称、所在、面積 (第25表-1)

換地区名	換地区の所在	面積 (ha)
全換地区	新潟県岩船郡関川村大字鮎谷	14.0

2. 換地区を設定する理由
該当なし

第3節 換地計画樹立の基本方針

1. 従前の土地の地積の基準 (第25表-2)

換地区名	地積の基準
全換地区	換地交付の基準とする従前の土地の地積は、土地改良事業計画決定の日の登記地積とする。ただし、土地改良事業計画決定の日から3か月以内に測量士、測量士補又は土地家屋調査士の測量した実測図及び隣接土地所有者の同意書を添付して申し出があった場合には、その申し出のあった地積とする。

2. 用途別予定地積

(単位: ha) (第25表-3)

換 前 地 区 名	用 途 （取得予定者）	非農用地区域外に換地する土地												非農用地区域に換地する土地										機能交換に係る土地				一 般 国 公 有 地	総 合 計		
		田	畑	山 林 ・ 原 野	そ の 他	通 常 事 業 施 行 地 域 に 含 め る 土 地 （ 令 第 1 条 の 9（ ） 書 き ）			計	本 事 業 に よ っ て 生 ず る 土 地 改 良 施 設 用 地			創 設 農 用 地 計	合 計	特 定 用 途 用 地			異 種 目 換 地	創 設 非 農 用 地						合 計	国	県			市 町 村 他	合 計
						土 地 改 良 施 設	そ の 他	小 計		改 良 区	そ の 他	計			宅 地	そ の 他	計		農 業 経 営 合 理 化 施 設 用 地	生 活 上 ・ 経 営 上 必 要 な 施 設 用 地	公 用 ・ 公 共 用 施 設 用 地	宅 地 等	計								
全 換 地 区	従前の 土地	12.2	(166㎡)	0.4	(263㎡)	-	-	-	12.6	-	-	-	-	12.6	-	(289㎡)	(289㎡)	-	-	-	-	-	-	(289㎡)	-	-	1.4	1.4	-	14.0	
	換 地	10.8	-	-	-	-	-	-	10.8	0.2	-	0.2	-	11.0	-	(289㎡)	(289㎡)	-	-	-	-	-	-	(289㎡)	-	-	3.0	3.0	-	14.0	
合 計	従前の 土地	12.2	(166㎡)	0.4	(263㎡)	-	-	-	12.6	-	-	-	-	12.6	-	(289㎡)	(289㎡)	-	-	-	-	-	-	(289㎡)	-	-	1.4	1.4	-	14.0	
	換 地	10.8	-	-	-	-	-	-	10.8	0.2	-	0.2	-	11.0	-	(289㎡)	(289㎡)	-	-	-	-	-	-	(289㎡)	-	-	3.0	3.0	-	14.0	

3. 農用地集団化の方針

(第25表-4)

区分 換地区名	地帯別、グループ別団地の設定	個人別換地の方法		
		位置の選択方法	1戸当たり目標団地数	区画畦畔の取扱い
全換地区	営農グループ別集団化 地域の担い手（農業生産法人）の経営農 用地の面的な集積を積極的に推進する。	各人の換地は、従前の土地条件を総合的 に勘案して定める。	各農家の農地は、できるだけ大規模に集団化するもの とし、1戸当たりの団地数は 田で、おおむね1～2団地を 目標とする。	原則として、固定畦 畔とする。

4. 非農用地の換地方法

(第25表-5)

区分 換地区名	種類	非農用地区域の 位置の概略	面積 (㎡)	換地の手法	換地取得予定者	その他
全換地区	鉄塔用地	概ね従前どおり	145	特定用途用地換地	従前の土地所有者	
	電波塔用地	概ね従前どおり	144	特定用途用地換地	従前の土地所有者	

第4節 土地の評価及び清算の方法

- 1. 評価の方法
標準地比準方式
- 2. 清算の方法
増価額比例地積清算方式

第5節 換地計画樹立の年度計画

(第25表－6)

区 分 換地区名	一時利用地 の 指定予定年度	換地計画の 決定予定年度	換 地 処 分 予 定 年 度	備 考
全 換 地 区	令和 10～11 年度	令和 13 年度	令和 13 年度	

第6節 換地処分の特則

換地区内の区画形状の変更に係る工事が全て完了し、確定測量が実施されたときは、土地改良法第 89 条の 2 第 10 項で準用する同法第 54 条第 2 項本文の規定にかかわらず、換地処分を行うことができるものとする。

第10章 事業費の総額及び内訳

(第26表)
(単位：千円)

事業名 区 分	区画整理	農業用排水 施設整備	計	備 考
主 要 工 事	350,700	153,300	504,000	令和7年度単価 内工事雑費 8,400 内地方事務費 15,600
附 帯 工 事	—	—	—	
計	350,700	153,300	504,000	

事業名等	区 分	工 事 費				工 事 雑 費				地 方 事 務 費			
		国	県	市町村	地元	国	県	市町村	地元	国	県	市町村	地元
区画整理	負 担 率	62.5%	27.5%	10.0%	0.0%	—	100.0%	—	—	—	100.0%	—	—
	負担金額	208,750	91,850	33,400	—	—	5,845	—	—	—	10,855	—	—
農業用排水 施設整備	負 担 率	62.5%	27.5%	10.0%	0.0%	—	100.0%	—	—	—	100.0%	—	—
	負担金額	91,250	40,150	14,600	—	—	2,555	—	—	—	4,745	—	—
合 計	負 担 率	62.5%	27.5%	10.0%	0.0%	—	100.0%	—	—	—	100.0%	—	—
	負担金額	300,000	132,000	48,000	—	—	8,400	—	—	—	15,600	—	—

第11章 効 用

(第27表)

事業名等	項目 区分	年総効果(便益)額 (千円)	年総増加農業所得額 (千円)	備 考
区画整理・農業用 排水施設整備	作物生産効果	4,862	1,724	総費用（現在価値化）＝540,439 千円 総便益（現在価値化）＝644,106 千円 総費用総便益比＝ $\frac{644,106}{540,439}$ ＝1.19 増加所得償還率＝ $\frac{-}{31,531} \times 100$ ＝－ 令和7年度単価
	営農経費節減効果	28,887	29,337	
	維持管理費節減効果	△1,866	470	
	農業労働環境改善効果	2,731	－	
	景観・環境保全効果	398	－	
	国産農産物安定供給効果	1,101	－	
	計	36,113	31,531	
合 計	作物生産効果	4,862	1,724	
	営農経費節減効果	28,887	29,337	
	維持管理費節減効果	△1,866	470	
	農業労働環境改善効果	2,731	－	
	景観・環境保全効果	398	－	
	国産農産物安定供給効果	1,101	－	
	計	36,113	31,531	

第12章 関連する事業

該当なし

第13章 現況・計画平面図

別紙 計画一般図のとおり。

令和8年度採択希望地区(着工地区) 区画整理・農業用排水施設整備(経営体育成基盤整備「農地中間管理機構関連型」)事業

縮尺 1:25,000

かじかだに
新潟県 鮎谷地区 計画一般図

